

分析結果

※ 平均正答率は全て公立学校の値
 ※ 「大都市」とは政令指定都市と東京23区

【平均正答率（％）】

大都市	全国	仙台市	全国との差
64	64	63	-1

【観点別平均正答率（％）】

区分	全国	仙台	差
国語への関心・意欲・態度	57.6	56.2	-1.4
話す・聞く能力	72.3	73.8	+1.5
書く能力	54.5	53.6	-0.9
読む能力	81.7	81.2	-0.5
言語についての知識・理解・技能	53.5	51.0	-2.5

【学習指導要領の領域等の平均正答率（％）】

区分	全国	仙台	差
話すこと・聞くこと	72.3	73.8	+1.5
書くこと	54.5	53.6	-0.9
読むこと	81.7	81.2	-0.5
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	53.5	51.0	-2.5

【国語：○成果と●課題について】

- ① 【2二】 目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む問題の正答率は90.3%と高く、全国を1.8ポイント上回っている。
- ② 【3一】 話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問をする問題の正答率は83.4%と高く、全国を2.1ポイント上回っている。
- ① 【1三】 目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く問題の正答率は26.0%で、全国を2.8ポイント下回っている。
- ② 【2一（2）】 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかく読む問題の正答率は71.8%で、全国を4.1ポイント下回っている。
- ③ 【1四（1）ウ】 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題で、「かんしんをもってもらいたい」の正答率は23.5%で、全国を12.1ポイント下回っている。

指導改善の方策

<上記○●に対応した指導上のポイント>

- ① 調べる学習など本や文章全体から必要な情報を得るために、目次や索引を活用することが効果的である。それぞれの特徴を理解して利用させ、有効性を実感できるようにすることが大切である。
- ② インタビューで質問をする際には、「質問の仕方」を技能として学ぶことはもちろん、「何のために、どのような情報を聞き出したいのか」という思いを大切にさせる。そのことで主体的に自分の理解を相手に確認したり、相手の思いを引き出したりしようとするのが期待できる。
- ① 報告する文章では、調べて分かった事実が考えを支える理由や事例となる。事実から情報を適切に取り上げ、関係付けて書くために、キーワードを見つけて囲んだり、線でつないだりしながら考えることが効果的である。さらに、文章全体の構成を踏まえて、事実と考えを区別して書くことが大切である。
- ② 「何のために」「何を知りたいか」「どのような情報が必要なのか」など目的を明確にした上で、文章に書かれている話題、筆者の考えとその理由や事例となっている内容、構成の仕方などに注意しながら、表現に即して重要な点を的確に押さえて読むことが大切である。
- ③ 漢字の指導に当たっては、日常的に文や文章の中で適切に使うことができるようにすることが大切である。本問題のような同音異義語の指導に当たっては、同じ音からいくつかの熟語を思い浮かべ、それぞれの意味を考えて文脈にふさわしい熟語を選んで書くことができるようにすることが大切である。

【中学校 国語】

分析結果

※ 平均正答率は全て公立学校の値

※ 「大都市」とは政令指定都市と東京23区

【平均正答率（％）】

大都市	全国	仙台市	全国との差
73	73	77	+4

【観点別平均正答率（％）】

区分	全国	仙台	差
国語への関心・意欲・態度	76.5	80.6	+4.1
話す・聞く能力	70.2	74.2	+4.0
書く能力	82.6	86.0	+3.4
読む能力	72.2	76.9	+4.7
言語についての知識・理解・技能	67.7	71.3	+3.6

【学習指導要領の領域等の平均正答率（％）】

区分	全国	仙台	差
話すこと・聞くこと	70.2	74.2	+4.0
書くこと	82.6	86.0	+3.4
読むこと	72.2	76.9	+4.7
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	67.7	71.3	+3.6

【国語：○成果と●課題について】

- ① 【1三】文章に表れているものの見方や考え方について自分の考えを持つ問題の正答率は93.4%と高く、全国を2.2ポイント上回っている。
- ② 【1二】文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える問題の正答率は67.8%であるが、全国を6.3ポイント上回っている。
- ③ 【3二】伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く問題の正答率は82.9%で、全国を5.1ポイント上回っている。
- ④ 【2三】話合いの話題や方向を捉えて自分の考えを持つ問題の正答率は、全国を4.9ポイント上回っているものの、65.3%と高くはなく、無解答率も7.5%で今回の調査結果で最も高い。
- ⑤ 【1四】封筒の書き方を理解して書く問題の正答率は61.3%で、全国を4.5ポイント上回っているものの、今回の調査結果で最も低くなっている。

指導改善の方策

<上記○●に対応した指導上のポイント>

- ① 文学的な文章を読む際には、ものの見方や考え方を捉え、自分のものの見方や考え方を持つように指導することが引き続き大切である。その際、他人とももの見方や感じ方に違いがあることを学んだり、新しい発見をしたりするなど、考えの広がりや深まりを生むよう指導を工夫することが必要である。
- ② 説明的な文章を読む際には、文章の構成や展開を捉え、内容を的確に理解するように指導することが大切である。その際、目的意識を持って文章を読み、必要な情報を整理することができるように、目的に応じて中心となる語や文を捉えて段落相互の関係や事実と意見との関係を考えて読むよう指導を工夫することが必要である。
- ③ 説得力のある文章を書くためには、課題に沿って必要な情報が根拠としてふさわしいかを検討し、読み手に分かりやすく伝わるように自分なりの考えを加えるように指導することが大切である。
- ④ 話合いをする際には、話題や方向を的確に捉え、自分の考えを具体的に持ちながら参加するように指導することが大切である。その際、話合いの途中で、発言の仕方の留意点を確認したり、到達点に向けて取り上げる話題の絞り込み方を考えたりするなど、話合いの仕方を見直ししながら進めるよう指導することも効果的である。
- ⑤ 日常生活においても、手紙や掲示物、願書など様々な書式に合わせて、適切な字形や字体で書くように、書写の能力を社会生活に役立てようとする態度を育てることが大切である。本問題の手紙の形式の場合、相手の名前を他の文字より大きく書くことなど、相手への敬意についても考えさせるよう指導する必要がある。

【小学校 算数】

分析結果

※ 平均正答率は全て公立学校の値

※ 「大都市」とは政令指定都市と東京23区

【平均正答率（％）】

大都市	全国	仙台市	全国との差
68	67	67	±0

【観点別平均正答率（％）】

区分	全国	仙台	差
算数への関心・意欲・態度	—	—	—
数学的な考え方	62.2	62.7	+0.5
数量や図形についての技能	73.6	74.5	+0.9
数量や図形についての知識・理解	70.1	70.6	+0.5

【学習指導要領の領域等の平均正答率（％）】

区分	全国	仙台	差
数と計算	63.2	64.1	+0.9
量と測定	52.9	54.0	+1.1
図形	76.7	76.5	-0.2
数量関係	68.3	69.3	+1.0

【算数A：○成果と●課題について】

- ① 【2（2）】2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の約何倍かを、棒グラフから読み取って書く問題の正答率は83.8%で、全国を5.2ポイント上回っている。
- ② 【2（3）】二つの棒グラフから、一人当たりの水の使用量についてわかることを選び、選んだわけを書く問題の正答率は54.8%で、全国を2.7ポイント上回っている。
- ① 【1（3）】減法の式が、示された形の面積をどのように求めているかを、数や演算の表す内容に着目して説明を記述する問題の正答率は、全国を1.5ポイント上回っているが、45.4%と低い。また、無解答率が8.5%と高い。図形の構成についての見方を働かせ、示された図形の面積の求め方を解釈し、求め方について説明することができることに課題があると考えられる。
- ② 【2（4）】洗顔と歯磨きで使う水の量を求めるために、 $6+0.5 \times 2$ を計算する問題の正答率は59.1%で、全国を1.0ポイント下回っている。計算の順序についての理解に課題があると考えられる。
- ③ 【3（2）】減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方についてまとめると、どのようになるのかを書く問題の正答率は30.4%と全問中最も低く、全国を0.7ポイント下回っている。また、無解答率が14.4%と高い。計算に関して成り立つ性質を見だし、表現することに課題があると考えられる。
- ④ 【4（3）】残り7ポール分進むのにかかる時間の求め方と答えを記述し、24分間以内にレジに着くことができるかどうかを判断する問題の正答率は61.8%で、全国を0.8ポイント下回っている。場面の状況に応じて、数理的に捉え、数学的に表現・処理し、得られた結果から判断することができるようにすることに課題があると考えられる。

指導改善の方策

<上記○●に対応した指導上のポイント>

- ① 指導に当たっては、例えば本設問を用いて、二つの合同な台形で作られた図1の形について、面積の求め方を考察し式で表現して、面積の求め方について説明し合う活動が考えられる。その際、図1の形を「二つの合同な台形に分けることができる形」、「長方形から三角形を取り去ってできる形」といった面積の求積公式が既習である図形で構成されている形と捉えることができるようにすることが大切である。
- ② 計算の順序についてのきまりは、単に暗記するだけでなく、具体的な場面と関連付けながら確実に理解できるようにすることが重要である。また、四則を混合させたり（ ）を用いたりして一つの式に表すことができるようにすることで、計算の順序についてのきまりを確実に理解できるようにすることも重要である。
- ③ 指導に当たっては、例えば、商が同じになる幾つかの除法の式を基に、除法に関して成り立つ性質を見いだす活動が考えられる。その際、被除数と除数や、商について、適用する数の範囲を広げながら、見いだしたことがほかの数値の場合でも成り立つかどうかを確かめることができるようにすることが大切である。
- ④ 指導に当たっては、例えば本設問の場面を用いて、レジに着くまでにかかる時間を求め、条件にあてはまるかどうかを判断する活動が考えられる。その際、列に並ぶ場面を想起し、レジに着くまでにかかる時間を求めるために必要な数量について考察し、測定のしやすさなどを踏まえた上で、数量を選択することができるようにすることが大切である。

【中学校 数学】

分析結果

【平均正答率 (%)】

大都市	全国	仙台市	全国との差
61	60	63	+3

※ 平均正答率は全て公立学校の値

※ 「大都市」とは政令指定都市と東京23区

【観点別平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
数学への関心・意欲・態度	—	—	—
数学的な見方や考え方	51.0	55.1	+4.1
数学的な技能	63.9	65.9	+2.0
数量や図形などについての知識・理解	71.3	73.9	+2.6

【学習指導要領の領域等の平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
数と式	63.8	68.0	+4.2
図形	72.4	75.8	+3.4
関数	40.8	43.5	+2.7
資料の活用	56.3	58.6	+2.3

〔数学：○成果と●課題について〕

- ① 【9 (1)】説明を読み $6n+9$ を $3(2n+3)$ に変形する理由を完成する問題の正答率は 63.8% で、全国を 6.4 ポイント上回っている。
- ② 【6 (2)】冷蔵庫 B と冷蔵庫 C について、式やグラフを用いて、2 つの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明する問題の正答率は 41.1% で、全国を 6.4 ポイント上回っている。
- ③ 【9 (2)】連続する 5 つの奇数の和が中央の奇数の 5 倍になることの説明を完成する問題の正答率は 64.9% で、全国を 5.2 ポイント上回っている。
- ① 【8 (2)】「1 日に 26 分ぐらい読書をしている生徒が多い」という考え方が適切ではない理由を、ヒストグラムの特徴を基に説明する問題の正答率は 41.0% と低い。また、無解答率が 19.0% と最も高くなっている。グラフの特徴を代表値に注目して読み取り、根拠を持って説明することに課題が見られる。
- ② 【4】反比例の表から、 x と y の関係を式で表す問題の正答率は 49.3% で、全国とほぼ同等である。反比例の関係が $y=a/x$ の式で表されることを理解することに課題が見られる。
- ③ 【6 (1)】冷蔵庫 A の使用年数と総費用の関係を表すグラフについて、点 P の y 座標と点 Q の y 座標の差が表すものを選ぶ問題の正答率は 40.0% と、全問中最も低い。グラフの読み取りに課題が見られる。

指導改善の方策

<上記○●に対応した指導上のポイント>

- ② 本設問を使って授業を行う際には、冷蔵庫 B と冷蔵庫 C の総費用が等しくなる使用年数を求める方法について、「連立方程式をつくり、それを解いて使用年数の値を求める。」や「2 つのグラフの交点の x 座標を読み取る。」などと説明する場面を設定することが考えられる。その際、そのときに用いた方法について、「用いるもの」や「用い方」のいずれか一方の説明にとどまらず、その両方を指摘し、的確に説明できるように指導することが大切である。
- ① 本設問を使って授業を行う際には、平均値が代表値としてふさわしいかどうかをデータの分布の様子から検討し、判断する場面を設定することが考えられる。「1 日に 26 分ぐらい読書をしている生徒が多いといえそうだ。」という考えが適切ではないことを説明するには、「1 日あたりの読書時間である 26 分は山の頂上の位置にないので、1 日に 26 分ぐらい読書をしている生徒が多いというのは適切ではない。」のように、データの分布の特徴を捉えて、説明すべき事柄とその根拠を明確にして説明できるようにすることが大切である。
- ② 本設問を使って授業を行う際には、反比例の表から、 x の値とそれに対応する y の値の積が常に一定の値になり、その値が比例定数であることを確認するなど、表から式を求めることができるように指導することが大切である。また、 a を比例定数とし、 y が x に反比例するとき、 $y=a/x$ または、 $xy=a$ という式で表されることを確認することも大切である。
- ③ 本設問を使って授業を行う際には、冷蔵庫 A の使用年数と総費用の関係を表すグラフにおいて、「グラフ上の点 P の y 座標と点 Q の y 座標の差」を事象に即して解釈する場面を設定することが考えられる。その際、表で与えられた情報を基に、使用年数と総費用の関係をグラフに表し、グラフの横軸は使用年数、縦軸は総費用を表すということを、丁寧に確認しながら解釈させることが大切である。

【中学校 英語 「聞くこと」「読むこと」「書くこと」】

分析結果

※ 平均正答率は全て公立学校の値
 ※ 「大都市」とは指定都市と東京23区

【平均正答率 (%)】

大都市	全国	仙台市	全国との差
58	56	58	+2

【平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	—	—	—
外国語表現の能力	1.8	2.6	+0.8
外国語理解の能力	44.7	47.3	+2.6
言語や文化についての知識・理解	64.7	66.1	+1.4

【学習指導要領の領域等の平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
聞くこと	67.9	69.4	+1.5
話すこと	—	—	—
読むこと	55.6	58.3	+2.7
書くこと	45.8	46.9	+1.1

〔英語「聞くこと」「読むこと」「書くこと」：○成果と●課題について〕

① 【6】発表活動のためにまとめられた100円ショップについての文章を読んで、話の流れを示すスライドとして最も適切なものを選択する問題では、正答率が67.6%で、全国を4.7ポイント上回っている。

② 【5(1)】ある場所を説明する英文を読んで、空所に入る語句として最も適切なものを選択する問題では、正答率が83.5%で、全国を4.1ポイント上回っている。

People go to () when they want to borrow books. You can read books or study there.
libraries が正解

③ 【9(1)①】文中の空所に入れる接続詞として、最も適切なものを選択する問題では、正答率が83.4%で、全国を3.4ポイント上回っている。

Let's play tennis tomorrow () it's sunny. if が正解

④ 【9(1)②】一方、上記と同様な、文中の空所に入れる最も適切な接続詞を選択する問題では、正答率が54.1%で、全国を4.1ポイント下回っている。

I saw a friend of mine at the station, () I had no time to talk to him.
but が正解

⑤ 【1(4)】家で会話の聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選択する問題では、正答率が59.5%で、全国を2.3ポイント下回っている。

Today's dinner is curry and rice. It will take about thirty minutes to cook. Take a bath before dinner.
bath から dinner の絵が正解

⑥ 【9(2)②】与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりなどして、会話が成り立つように英文を書く問題では、正答率が28.7%と低く、全国を0.2ポイント下回っている。

My family and I went to Australia. (stay) there for two weeks. → We stayed が正解

指導改善の方策

<上記○●に対応した指導上のポイント>

- ① 説明文やエッセイなど、まとまりのある文章から話のあらすじを読み取るためには、文章全体を通して、段落相互の関係を考えながら読むことが大切である。読みやすい部分を手掛かりにしながら、読みづらい部分についても、推測しながら読み進める指導が大事である。文章を読むことに慣れさせるためには、教科書や他の題材を数多く読ませることが必要である。文章全体や段落ごとにタイトルを付ける活動や話のあらすじを短い英語で要約する活動が考えられる。
- ② 英語を読んで情報の詳細を理解するためには、語や文法事項等の知識が活用できる力が大切である。libraries を説明する二つの英文の意味を正確に読み取ることが試されたが、普段から文脈の中で英語の意味を推測しながら読み取ることが指導することが大事である。
- ③ 正しく文を書くためには、語や文法事項等の知識が活用できる程度に高めておかなければならない。大問9設問(1)①では、適切な接続詞を選ぶことが試された。接続詞は、語と語、文と文を結束させ、文を構成する上で重要な役割を果たすものであるが、接続詞 if については、用法を正しく理解して、文の中で適切に用いることができていた。
- ① 一方、上記③と同様に設問(1)②でも適切な接続詞を選ぶことが試されたが、主節との意味のつながりを正しく理解できず、「彼に話し掛ける時間がなかったので」という because を用いた従属節と解釈した誤答が多かった。節を導く接続詞の習得には論理関係の理解が必要であり時間が掛かることから、言語活動を通して指導していくことが重要である。
- 具体的な指導としては、以下のような活動が考えられる。
- ・文脈の中で適切な接続詞が用いられているモデル文を提示し、その内容を理解させる活動
 - ・二つの文の意味を考えた上で、適切な接続詞を用いて一つの文を作らせる活動
 - ・適切な接続詞を用いて主節に導く従属節を作文させる活動
 - ・日本語と英語を比較しながら、主節と従属節の関係を考えるなど、英語の文構造を理解させる活動
- ② before dinner という句から時間の前後関係が把握できず、情報を正確に聞き取ることができていない誤答や、take a bath before dinner という情報が把握できず、dinner, homework という、聞こえてきた情報の順序で内容を捉え、誤答になったとも考えられる。
- 情報を正確に聞き取るためには、英語の音声の特徴を踏まえて、事実や出来事などについての必要な情報を正しく理解する必要がある。教師が自然な口調の英語を用いるようにして話すなど、日常的な「聞くこと」を通して理解する活動を繰り返し行っていくことが大事である。
- 具体的な指導としては、
- ・一日の行動や旅行の計画などを聞き、before A, after B 等の時間的な順番を表す句を正しく捉え、時間の前後関係を理解する活動などが考えられる。
- ③ 文を正しく書くためには、言語材料の定着が必要である。コミュニケーションにおいて時制や人称は大事な事柄であり、文脈から適切な文の形式や時制を判断することが大切である。一文のみを示して空欄の動詞の形を変えさせるといった指導ではなく、対話や文章の流れからふさわしい文の形式や時制を考えさせる活動などが考えられる。その際、確実な定着を図るために、ある程度の分量の練習をさせることも重要である。

【中学校 英語「話すこと」】（参考値）

参考値

【平均正答率（％）】	全国（参考値）
	30.8

【観点別平均正答率（％）】

区分	全国（参考値）
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	—
外国語表現の能力	28.1
外国語理解の能力	—
言語や文化についての知識・理解	32.6

【学習指導要領の領域等の平均正答率（％）】

区分	全国（参考値）
聞くこと	—
話すこと	30.8
読むこと	—
書くこと	—

【英語「話すこと」：○成果と●課題について】

- ① 【3】 海外のテレビ局の要望に応じて、自分の将来の夢、またはやってみたいこと等を話す問題で、本市の正答率は55.7%であり、全国を9.9ポイント上回っている。
- ① 【2】 ユイコとアラン先生のやり取りを聞き、その内容を踏まえて会話が続いていくように、即興で質問をする問題では正答率は11.8%で、全国10.5%を少々上回るが、無解答率は24.8%であり、こちらは全国を4.1ポイント上回り課題となっている。

指導改善の方策

<上記○●に対応した指導上のポイント>

- ① 及び ① 本問は、海外のあるテレビ局が「世界の子供たちの夢」をテーマに番組を収録するという場面において、テレビ局からの要望を書いたメモを基に、まとまりのある内容を話す問題である。
- 「まとまりのある内容を話す」とは、一つのテーマに沿った、内容に一貫性のあるスピーチをすることを意味する。本問では、将来の夢というテーマについて、その夢の実現のためにやるべきことなどと関連付けて、自分の意見や主張を聞き手に分かりやすく話すことができるかどうかを把握するため出題された。
- 55.7%という正答率だが、与えられたテーマについて考えを整理し、まとまりのある内容を話すことにはまだ課題があると言える。小学校で「伝えたいことを整理して話すことができること」を目標に取り組んでいることを踏まえ、それまでの学習内容や指導方法を発展的に生かす手立てを検討していく必要がある。
- なお、生徒は、小学校外国語活動に時間に、『Hi, friends! 2』の「Lesson 8 What do you want to be?」を用いて、自分の夢について話すという活動を経験している。
- また、本問は「話すこと」の調査の中で無解答率が最も低いことから、自分の意見を話そうという意欲は感じられる。生徒の話す意欲の向上は、小学校段階から始まる言語活動の積み重ねの成果とも捉えられる。
- 指導に当たっては、目的や場面、状況を意識した具体的な課題を設定し、まとまりのある内容を話すなど思考力・判断力・表現力等を育てる言語活動を意図的に行うことが大切である。それには、全体の文章構成を考えたり、一度発表した内容を構成面から振り返らせたりすることも大切である。単に自分のやりたいことや夢を伝えるだけでなく、短い準備の時間の中でそれらを整理して伝えること、さらに、目的・場面・状況に応じて、情報を加えて話し続けることを目指したい。相手意識を大切に、互いのやりとりの中で自分が聞き手であつたら何が聞きたいかを考えさせたり、理解を確認しながら話させたりすることも有効である。